

講評を書く
 〈学級新聞コンクール〉
 組番氏名

文化委員の小林さんは、学級新聞コンクールの審査委員として、新聞記事の講評を書くことになりました。次の資料は、A組の新聞記事と新聞コンクールの採点項目表です。これらを読んで、後の問いに答えなさい。
A組の新聞記事

「自転車安全利用五則」

「実は軽車両 自転車は車のなかま」

私たち中学生にとって身近な乗り物である自転車。手軽な乗り物だと考えがちだが、実は軽車両であり、ルール違反者は罰せられることもあるという。私たちはどこまでルールを意識して運転しているだろうか。

左に示した【資料1】は宮崎県警察本部交通企画課が出している「自転車安全利用五則」のポスターである。

この中に「自転車は軽車両、車のなかまです」という一文がある。調べてみると、平成二十五年の道路交通法の改正により危険な運転や悪質な違反行為には罰則が科せられることもあるということがわかった。

罰則があるから守る、守らないというのではないが、自転車を運転するには、それだけの責任が必要だということを示しているのだろう。

だから、自転車を運転する私たちは自動車を運転する人のように責任をもって運転しているといえるのだろうか。そこで、この「五則」の中から私たち中学生に身近な項目をあげて、ルールを意識して運転しているか、実態を調査してみた。

それが【資料2】のグラフである。これを見ると、「⑤ヘルメットをいつも着用している。」の項目は六十二%の人がいつも意識しているのに対して、「①自転車に乗るときには車道を通行する。」や「②一時停止をきちんと行っている。」については半数以上の人が意識できていないことがわかる。

ヘルメット着用については普段から先生方によく指導されるため、意識が高いと思われる。

一方、意識の低い二つの項目について学級で聞いたところ、「それが違反であるということ」を知らなかった。「こういう答えが返ってきた。「これくらいなら、という気持ちがあるのでは。」と言った人もいた。

しかし、これらの行為が交通事故につながり、自分や他人に迷惑をかけてしまうものだ。私たちは自覚しなければならないのではないだろうか。

【資料2】 アンケート結果

自転車安全利用五則
を守りましょう

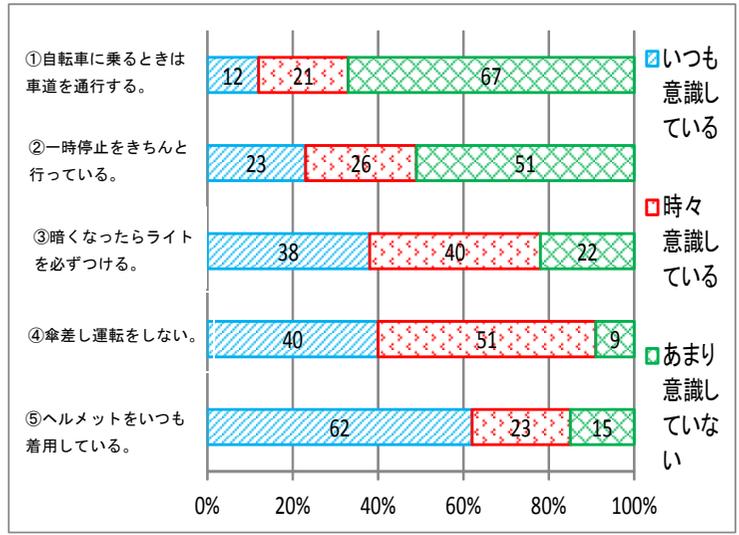
- ① 自転車は、**車道が原則**、歩道は例外
- ② 車道は、**左側を通行**
- ③ 歩道は、**歩行者優先**で、車道寄りを歩行
- ④ **安全ルールを守る**
 - 一時不停止・信号無視
 - 運転中の携帯電話の操作・無灯火
 - 二人乗り
 - 子どもは、**ヘルメット**を着用

自転車もてげてげは危険

宮崎県警察本部交通企画課

【資料1】 「自転車安全利用五則」

出典：宮崎県警察本部HPより



A組の採点項目表

採点項目		評価
①	記事の内容は中学生としてふさわしいか。	A
②	見出しは記事の内容と合っており、読む人の興味を引くものになっているか。	C
③	提示された資料は適切か。	
④	語句や文の使い方は適切か。	
⑤	筆者の主張は適切に伝わる文章の構成	

(一) A組の採点項目表を見ると、「④語句や文」となっています。これは、接続詞の使い方が適切でない接続詞を書き抜き、正しい接続詞

適切でない接続詞

正しい接続詞

しかし

だから

〈解答のポイント〉
採点項目表の②に基準として、「記事の内容と合っているか」「読む人の興味を引くものになっているか」とあるので、それを参考に見出しを評価すればいいですね。
読む人の興味を引くためには、問いかけの文を使ったり、内容を表すキーワードを入れたりすると効果的です。
また、文末表現は、他の文にあわせて、敬体で書きましょう。

学級新聞コンクール講評

この記事は、中学生にとって身近な乗り物である自転車を取り上げながらも、普段意識していない安全のきまりに着目し、問題提起している点が良いと思います。

また、問題提起、具体例、筆者の主張という論理の展開が明確な文章構成となっており、提示された資料も筆者の主張に添うものとなっています。

しかし、見出しについては、**ポスターの一部を取り上げて、内容を強調しているものの、読む人の興味を引くものにはなっていないのではないのでしょうか。**

例えば、「**あなたの自転車運転、大丈夫？ 意識しようよ、『自転車安全利用五則』**」

という見出しにしたり、語句の使い方に気をつけたりすることで、さらに読みやすい新聞になると考えます。

ひむか中学校 文化委員会

(二) 小林さんは、左のように講評を書きました。あなたもこの空欄の部分はどう書きま

